

平成 22 年 4 月 2 日

江別市建設部都市建設課治水公園係 御中

北海道アオサギ研究会
代表 松長克利
住所 札幌市北区北 16 条西 4 丁目 1-1
電話 011-709-9099

江別市元江別のアオサギ営巣地の保全に関する要望書

近年、アオサギの個体数が増加し分布域が広がるにつれ、アオサギと人との間にさまざまなトラブルが生じるようになってきました。とくに、最近では営巣地が市街地につくられることが多くなり、住民との間に一層の軋轢が生まれています。

こうした状況のもと、私たちの研究会ではアオサギと人が共存できる方法を模索しつつ研究活動を行って参りました。調査対象とする営巣地は全道全域に及びます。中でも今回取り上げる元江別、世田豊平川右岸にある営巣地は、1997 年の営巣地成立以来、重点的に調査をしてきたところです。当営巣地は 170 巣前後で道内でもかなり規模の大きな営巣地であり、石狩管内広域個体群においては今や平岡の営巣地と並ぶ二大拠点となっています。また、現在の営巣地は住宅地に隣接する場所にありながら、地域住民とのトラブルがほぼ皆無であることが特徴で、人々が野生動物と身近に接することのできる貴重な場所となっています。すなわち、アオサギにとっても人にとっても望ましい状況が維持されている希少な営巣地であると言えます。

しかしながら、近年、当営巣地が多くの人に知られるようになったことで、アオサギの繁殖への悪影響が心配される事態になってきました。とくに一部の心無いカメラマンが営巣場所に

近づきすぎることが原因で、毎年多くのつがいが繁殖に失敗しています。アオサギは非常に警戒心の強い鳥であり、営巣期間中に過度のストレスがあると、最悪の場合、営巣地全体が放棄される懸念もあります。ここを訪れるカメラマンは年々増えており、これまでのような状況を放置すれば、将来的にいつ営巣地全体が放棄されても不思議ではありません。

このような事態は、(1) 地域で核となるコロニーを優先的に保護すべきという保全生物学上の理由と、(2) 万一、放棄した場合には移動先の営巣地で人との間に新たな摩擦が起きるという実理的な理由から絶対に避けなければなりません。とくに(2)の移動先での新たな摩擦については、今回のように営巣地が市街地に隣接している場合にはとくに注意が必要です。

野生生物との共存を目指すまちづくりを行う上でも、今のうちに何らかの対応をとることが是非とも必要です。

つきましては、下記事項についてご尽力を賜りますようお願いいたします。

記

アオサギ営巣地对岸の河川敷における観察可能ゾーンと進入禁止ゾーンの明確な区分け、および進入禁止ゾーンへの立ち入りを規制する具体的措置

以上